

## 第 15 週

### 質問 37. 「苦しみを受け」という言葉は、何を意味しますか。

答え I イエスさまは地上にいる間、特に、その生涯の最後に、全人類の罪に対する神の御怒りを、自らその体と靈魂に受けられました。<sup>01</sup> 贖罪のいけにえとして、その苦しみによって、<sup>02</sup> 永遠の罪の定めから、私たちの体と靈魂を贖われ、<sup>03</sup> 私たちに神の恵みと義と永遠の命とを得させてくださいました。<sup>04</sup>

① キリストが受けられた苦しみは、ただ肉体が受けた苦しみだけを意味するのではなく、靈魂が受けられた苦しみまでも含めます。神の怒りは、その靈魂のただ中に注がれました。キリストは、罪人に向けられる神の公義を満足させるために、ご自身の靈魂を、多くの人を罪から贖う代価として、自分の命を罪過のいけにえとして差し出しました（マタイ 20:28、イザヤ 53:10、レビ記 18:11）。勿論、キリストの死は、選ばれた者たちの罪のためです。その苦しみは、神の怒りのムチであり（イザヤ 10:5）、憤りの杯でした（マタイ 26:39）、十字架での死は、彼が御怒りを受けることによって、選ばれた者たちを呪いから救うためのものでした（ガラテヤ 3:13）。

---

01 イザヤ 53 章、1 テモテ 2:6、1 ペテロ 2:24, 3:8.

02 ロマ 3:25、1 コリント 5:7、エペソ 5:2、ヘブル 10:14、1 ヨハネ 2:2, 4:10.

03 ロマ 8:1-4、ガラテヤ 3:13、コロサイ 1:13、ヘブル 9:12、1 ペテロ 1:18-19.

04 ヨハネ 3:16、ロマ 3:24-26、II コリント 5:21、ヘブル 9:15.

② キリストの贖いの働きには、その生涯と、苦しみと、死が含まれています。つまり、キリストの苦難とは、その（地上の）生活の始まりから、最後まで受けた苦しみを語っています（ヘブル 2:18、1 ペテロ 2:21）。キリストは誕生の時からエジプトに逃れなければならない立場に置かれ、公生涯を始める時から悪魔からの試みを受け、公生涯の間にはユダヤ人たちに脅かされました。そして最後には、十字架の苦しみと死がありました。

十字架にかけられる前に、キリストの心は悲しみ悶<sup>もだえ</sup>えていました。ゲッセマネの園では苦しみの祈りを捧げ（マタイ 26:37）、ユダの裏切り（ルカ 22:48）、弟子たちはキリストを捨てました（マルコ 14:50）。ペテロはキリストを否定し（ルカ 22:61）、人々はキリストに対する偽証の証言を立て（マタイ 26:60）、兵士たちはからかったあげくつばきをかけました（マタイ 27:29）。集まって来た群衆たちは、キリストを十字架に付けろ、付けろと叫びました（マルコ 15:14）。そして十字架の上で、キリストが受けられた苦しみは、言葉で言い表せない、表現できないものでした「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」（マタイ 27:46）とまで、叫ばれました。

③ キリストのこのような苦難は、ご自分の罪のせいで起きたのではなく、キリストの苦難は、神に定められたものでした（使徒 4:28）。キリストと父との協議によるものでした（詩 40:6-8）。この約束を移行するために、キリストは進んで苦難を受けられたのです。従ってキリストの苦難は、預言の成就のためのものでした（イザヤ 53 章）。キリストの苦難は、旧約における捧げ制度によっても先に見せられ（ヘブル 10:1）、神に、ご自身を犠牲のいけにえとして捧げたのです（エペソ 5:2）。このようなキリストの苦難は、父に対する完全な従順と、聖なる忍耐を例として私たちには見本となります（1 ペテロ 2:21）。その苦難の一番のおもな目的は、ご自分の民の罪に対する、神の公義を満足させるためだったのです。

④ キリストのいけにえとしての奉げは、ただ一度の完全な捧げとして、罪人を聖なるものとするためでした（ヘブル 10:4-14）。この贖罪の捧げの効力は、すべての時代に及んで影響を与えます（ヘブル 9:12, 7:25）。それだから、選ばれた民のすべての罪がキリストの身に負わされ、その中で処罰されたのです。旧約の教会はこれをすでに見ました（イザヤ 53:4-7）。それゆえ旧約の聖徒たちも、キリストによって約束された、贖いの信仰を通して救われたのです（ロマ 3:25-26）。

ペテロはこれを具体的に説明しています（1 ペテロ 2:24）。贖罪の死は、罪人が自分の罪の実態を悟って、罪の赦しと、神の審判から救われたいと渴望する、選ばれた罪人には実際的なものになります（1 ペテロ 1:18-19、マタイ 20:28、1 テモテ 2:6）。キリストの苦難は、選ばれた者たちのためだからです（Ⅱコリント 5:15）。神は、このようにキリストの血を通して選ばれた者たちの罪を赦すことで、ご自身の義を宣言なさいました（ロマ 3:25-26）。そして不義なる者たちのためのキリストの苦難は、私たちに神に導きます（1 ペテロ 3:18）。従って、キリストの苦難は、永遠の罪の定めから私たちの体と靈魂を贖い、神の恩徳を味わせる有益を与えます。私たちはキリストの功勞によって、信仰によって義と認められ（Ⅱコリント 5:21）永遠の命を所有するようになります。

## 質問 38. なぜイエスさまは、総督ポンテオ・ピラトに裁判を受けられましたか。

答え I イエスさまは罪のない方でしたが、臨時的な裁判官によって罪に定められたこと<sup>01</sup>によって、私たちに下されるはずの<sup>02</sup> 厳重な神の審判から私たちに自由<sup>02</sup>にさせるためでした。

---

01 ルカ 23:13-14、ヨハネ 19:4, 12-16.

02 イザヤ 53:4-5、Ⅱコリント 5:21、ガラテヤ 3:13.

① ポンテオ・ピラトはユダヤ地方、ローマ帝国の管理でした。その人は、人々に死の刑罰を宣言できる権限がありました。キリストが歴史的に、ポンテオ・ピラトの裁判によって罪に定められたことは預言の成就であり（創 49:10）キリスト自身も先々に語られた言葉の成就でした。「人の子は異邦人に引き渡され、あざけられ、はずかしめを受け、つばきをかけられ、また、むち打たれてから、ついに殺されるが」（ルカ 18:32-33）。キリストは、ユダヤ指導者から迫害を受けましたが、公開的には異邦人裁判官によって罪に定められたのです。

② この地において、一時的な裁判官によって、キリストの裁判は、キリストが無罪であることを証ししてくれます。キリストの死が、個人的な罪によるのではないことを見せてくれます。ピラトはキリストを二回も調査しました。一度目は自分の宮殿で、そして二度目は、民の指導者たちの前ででした。その後、ピラトははっきり民たちの前でキリストは無罪であると三回も宣言しました。まして、自分の手を洗う行為までも見せました。そして、その妻による警告までも一緒に与えられます（マタイ 27 章、ルカ 23 章、ヨハネ 18:19）。それにも関わらず、彼はイエスさまを罪に決めました。彼は、神よりも人々の顔を気にして、その結果として、罪のないイエスさまを死に追いやる人物になってしまったのです。従ってイエスさまがポンテオ・ピラトに裁判を受けられたのは、罪のないイエスさまが、罪に定められたことを証しします。使徒たちも、キリストがピラトの前に立ったことを強調しますが（使徒 3:13-14, 13:28）、その方は罪がなかったにも関わらず、罪に定められたことを意味します（1 テモテ 6:13）。

③ キリストは罪がなかったけれど、この地において、一時的な裁判官の前で罪に定められました。ここには、神の御心と計画がありました。キリストはピラトの前で「上から賜わるのでなければ、わたしに対して何の権威もない。だから、わたしをあなたに引き渡した者の罪は、もっと大きい」（ヨハネ 19:11）と告げられました。それゆえ神が、無罪であったキリストを死に導かれたのは、ご自身の民の罪を解決なさるための方法、つまり、選んだ民を、神の審判から

救おうとする御心があったことが分かります。

それにも関わらず、ユダヤ人たちがキリストをピラトの引き渡したことは、彼らの頑なさを現します。神の民だと自称するイスラエルの民と、彼らの指導者たちと共に、キリストをローマの統治者の手に引き渡して死に至らせたからです。これは、人間の罪悪性の深刻さを見せています。キリストは、彼らの罪悪が決して小さなものでないことを明確に成しました。ピラトの法廷事件は、神の民だと言いながら、神の御心に常に逆らった彼らの姿を赤裸々に証しているのです。

**質問 39. イエスさまが他の方法ではなく、十字架で釘付けにされたのが、それほど重要ですか。**

**答え I** そうです。十字架の死は、神から呪いを受けた死であるから、キリストの死は、私が受けるべき呪いを代わりに背負われたとことの確信を与えます。<sup>01</sup>

**①** イエスさまの死は、私たちの罪を赦すために神の計画なされたことです。イエスさまが進んで苦難を受けられたのは、ご自分の民が罪によって受けるべき神の呪いを、代わりに背負うためでした。私たちの罪は、神の厳重な審判を呼び起こします。私たちの罪は律法を破ったことであり、律法を破った結果は呪いです。それでイエスさまは、私たちの罪に対する呪いと神の厳重な審判を代わりに担われたのです。

イエスさまの従順が根拠になって、神は、私たちの罪を赦しご自身の義を宣

---

01 申命記 21:23、ガラテヤ 3:13.

言なさいました（ロマ3:25-26）。結局、イエスの中にいる者には、罪の定めがありません（ロマ8:1）。イエスさまは、私たちが受けるべき恐ろしい苦しみを代わりに背負われたからです（マタイ27:47）。イエスさまが、私たちのために律法を成就させたのです（ヨハネ19:30）。従って、律法の義は、私たちの内で成就されます（ロマ8:3-4、コロサイ2:10-15）。

② それでは、なぜイエスさまは十字架で死ななければならなかったのですか。ユダヤ人がイエスさまを告訴した罪は、神聖冒瀆罪でしたが、そのような罪は石を投げて処刑します。ピラトも、ユダヤ法でイエスを処刑しなさいと許可しました。しかし、ユダヤ人たちは、ローマ法で処刑してくれるようピラトに頼みました。ローマ法は、罪人を十字架に釘づけすることでした。

十字架で受ける死の苦しみは、とても恐ろしいものです。そして、それは、異教徒による一番恥ずかしい刑罰でした。ユダヤ人たちが、イエスさまを十字架の死に追いやった理由は、申命記21章22節、「もし人が死にあたる罪を犯して殺され、あなたがそれを木の上にかける時は」と記された御言葉を、キリストに適用させて、イエスさまの運動を終わらせようとする政治的目的がありました（使徒2:23）。

ユダヤ人たちの政治的陰謀は、かえって、神の御心を成就させる手段となりました。そしてそれは、イエスさまは、選ばれた罪人の呪いを代わりに受けられたことを証明することになります（ガラテヤ3:13）。使徒ペテロは、五旬節の日にそれを確かに悟っていて、また、自分の説教を通して強調しました（1ペテロ2:24）。

③ このように、イエスさまが十字架で死なれたことは、必ず、必要なことであって、すでに預言されたことでした。旧約では、青銅の蛇という類型で示されますが（民21:6-9）、燃える蛇が人にかみついた人々が死んでいく時、青銅の蛇が旗ざおの上につけられると、信仰によって、旗ざおの上につけられた青銅の蛇を仰ぎ見る者は生きることができました。イエスさまもご自身が青銅の蛇の

類型であると仰せられました（ヨハネ 3:14-15）。

イエスさまは、ご自身の十字架の死についてもすでに告げられました（マタイ 20:19、ヨハネ 18:31-32）。そして、その預言通りに、神の御心に従って、十字架に釘づけられ死なれました。イエスさまが十字架を進んで背負われたことで、罪に対する一番重い刑罰を受けられたのです。そして、その死を通して、選ばれた民の罪の赦しの根拠を用意なさいました。従って、キリストの死が、私たちにどのような効力を与えたのかを、悟ることは、大変重要です（ガラテヤ 2:20）。